

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

山梨県南アルプス市

○学校名

山梨県立白根高等学校

○学校のURL

<http://www.shirane-hs.kai.ed.jp/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】全学年各 5 学級

【合計】15 学級

○児童生徒数

【全児童生徒数】561 人（平成 27 年 1 月 1 日現在）

（内訳：1 年生 190 人、2 年生 185 人、3 年生 186 人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標及び目指す生徒像】

様々な学びを通して自己を高め、社会の中で生きてゆく道を拓くことができる生徒の育成を図る。

【人権教育に関する目標】

「自らの望ましい在り方を主体的に考え、判断し、行動できる生徒の育成」

「他者理解を深め自他を尊重できるような判断力・行動力の養成」

○人権教育に係る取組一口メモ

自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする意識・意欲・態度を育成する。

○人権教育にかかる取組の全体概要

他校の先行事例を参考に、生徒指導・保健係（担当分掌）と研究・研修・図書係が指導計画の立案・周知・実践・評価の体制をつくる。その際、以下を指導重点とした。

- ① 自ら学び、学習の意味や学習の目的をしっかりと把握できる。
- ② 利他的な、自己犠牲的な行動や判断を取ることができる。
- ③ 他者から信頼され、責任感を持ち続けることができる。
- ④ 善悪の判断ができ、規範意識を高めることができる。

以上を目標とした生徒の育成を、道德教育の全体計画に基づき、各教科の授業実践と HR・生徒会活動・学校行事などの特別活動の両面で行う。

3. 特色ある実践事例の内容

◆いじめ防止に関する道徳教育プログラムの作成とホームルームでの活用

(取組のねらい・目的)

いじめ問題に対しての、本校生徒が持つ認識や考え方を明らかにするため、全体に向けた講演会の後、ロングホームルームにおいて生徒同士で討論させ、考えさせることで、いじめ問題に関する思考力と判断力を養成する。またそれに沿って人権教育の基盤を根付かせることを目指す。

(取組を始めたきっかけ)

いじめ防止等をねらいとした道徳授業の在り方を模索する中で、いじめの非人間性やいじめが他者の人権を侵す行為であることに気付かせ、他人の痛みを理解できる生徒を育てるプログラムを作成した。

(取組の内容)

a 道徳教育講演会

講師：近県で活躍するNPO法人

演題：「やさしい心が一番大切だよ」

内容：同級生からのいじめにより自死した娘さんを持つ母親による講演

b 事後指導

<授業案>

【グループごとにホワイトボード、付箋（黄色・ピンク）を配付】

- ① これはいじめではないかと思うことを各自1つ以上、黄色の付箋に書いてホワイトボードに貼る。
- ② 貼った付箋について、同じ内容のものを集めて貼り直させる。
- ③ それぞれについて、これはいじめだとみなされるかどうかを考え~~え~~させる。
- ④ 次にいじめに遭ったらどうすればよいかについて考え、ピンクの付箋に書いて貼る。
- ⑤ 貼った付箋について、同じ内容のものを集めて貼り直させる。
- ⑥ ホワイトボードを黒板に貼る。
- ⑦ 話し合った内容を、グループごとに発表させる。
- ⑧ 再度いじめとみなされる行為を確認し、安心して高校生活を送れるよう、クラス全体でお互いに尊重し合うことの大切さを確認し合う。

◆道徳教育に向けたOPPシート（「自分振り返りシート」）の活用

(取組のねらい・目的)

OPPシート（「自分振り返りシート」）を活用し、自ら「考え、設定し、反省する」サイクルを習慣化させることで、主体的な学びの促進や規範意識の向上を目指す。

(取組を始めたきっかけ)

新学習指導要領では、小中学校における道徳の指導において、書く活動や自らの成長を実感させるような活動の工夫等が求められていることから、高校生に関しても、生徒がOPPシートの項目、並びに設定した目標の達成状況を振り返り、それを元に来週に向けた目標を設定することで、主体的な学びの促進や規範意識

の向上に効果があると考えた。

(取組の内容)

以下のOPPシート(「自分振り返りシート」)に、生徒は一週間ごとに記入し、担任に提出する。なお、一昨年ものを昨年は修正した。

I. 初年度の「自分振り返りシート」

- ・記入形式：記述式
- ・項目：楽しかったこと・打ち込んだこと・つらかったこと・良いことをしたか

II. 2年目の「新自分振り返りシート」

- ・記入形式：自己評価式
- ・項目：
 - ・さわやかに挨拶できたか
 - ・相手の意見を丁寧に聞けたか
 - ・アサーティブに自分の意見を伝えられたか
 - ・自分の行動・言動を振り返ることができたか

新 自分振り返りシート ～自分を高めるために～		H25・26年度高等学校「生徒指導研究推進校」		『自らの望ましい在り方を主体的に考え、判断し、行動できる生徒指導のあり方』		※○印を書こう(できなかった1→できた5)		年 組 番 氏名	NO.6															
週		さわやかに挨拶できた					相手の意見を丁寧に聞けた					アサーティブに自分の意見をわかりやすく伝えられた					自分の行動・言動を振り返ることができた					今週の目標が達成できたか？(○△×)	来週の目標	担任欄
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5			
26	11/2～11/8																							
27	11/9～11/15																							

◆スマホの使用ルールに関する、保護者の意見も交えたホームルームでの取組

(取組のねらい・目的)

スマートフォンの普及が進み、ネット環境でのルールやマナー等を学ぶ「情報モラル教育」を求める声はより一層強まっている。使用法を誤ると人権侵害にもつながることから、ネット環境での道徳教育の在り方を模索する。

(取組を始めたきっかけ)

LINEやSNSに端を発する人間関係の悪化も起きていることを踏まえ、スマートフォンの使用に関するルールやマナーについては、保護者の意見も取り入れた取組が必要であるとともに、お互いの意見を尊重しながら、話し合いでルールをつくることが重要であると考えた。

(取組の内容)

- ① 事前に『スマホの使用契約書(大切なグレゴリーへ)』を保護者に配付して、共感できるものを3つ挙げてもらい、保護者の意見を集約しておく。
- ② 事前に『スマホの使用契約書(大切なグレゴリーへ)』の内容に対して、共感できるもの、共感できないもの、そして自分の意見を記入するプリントを配付し、生徒に考えさせておく。

- ③ プリントの意見をもとに隣同士で意見交換をする。
- ④ 6～7名のグループで、意見交換をするが、その際司会役の班長を立候補させ運営させる。
- ⑤ グループごとに、共感できる項目の上位3つとその理由をホワイトボードにまとめさせ、班長にクラス全体に発表させる。
- ⑥ 事前に集約しておいた保護者の、共感できる項目の上位3つを伝え、その上で保護者がそれらの項目を選んだ理由を考えさせ、口頭で発表させる。
- ⑦ 生徒と保護者の双方の意見を総括し、「大切なことである」という認識を持たせた上で、社会的な規範を守り、また人権を尊重する意識はなぜ必要なのかを意見交換し、ホワイトボードにまとめさせ、班長にクラス全体に発表させる。
- ⑧ これらの保護者の思いを受け止め、今後どうすべきかを考えさせ、プリントに個々にまとめさせる。
- ⑨ 最後に自分が将来、保護者の立場で、スマホの使用方法について、中学生の息子、娘にどう伝えるかを個々に考えさせ、発表させる。

4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

(課題、課題が生じた背景)

- ・ いじめ防止に関するプログラムの実施において、生徒に、いじめとみなされる行為をグループ内で列挙させる際、過去にいじめを受けた経験がある生徒は冷静な気持ちで参加できないばかりか、過去のつらい記憶を呼び起こさせることにもつながってしまう。

(課題に対する解決方法)

- ・ クラス内に過去いじめの被害に遭った生徒がいる場合は、クラス担任の判断でグループ学習ではなくワークシートの中で個別に、いじめとみなされる行為や、それらの行為に遭った場合どう行動すべきかを考えさせ、担任がコメントを通して互いに尊重し合うことの大切さを確認した。

5. 実践事例の実績、実施による効果

(取組の実績)

- ・ 実施年度の7月と1月に実施したアンケート結果の比較では、次の項目で改善が見られた。()内の値がその変化の度合いである。
- ① 私は日頃自分から挨拶をしている (+0.64)
 - ② 相手の意見を丁寧に聞いている (+2.7)
 - ③ 最近イライラすることが多いか? (そう思う-1.69)
 - ④ イライラすると、つい人に当たってしまうことが多い (そう思う-1.99)
 - ⑤ 行動決断することについて他者の影響を受ける方か? (そう思わない+1.7)
 - ⑥ ルールを守ることについてどのように思っているか? (とても大切だ+0.77)
 - ⑦ ルールを守ることについてどのレベルであると考えているか? (だいたい守る+3.9)
 - ⑧ あなたは自分自身や生活について反省したりすることがあるか? (+8.24)

6. 実践事例についての評価

(取組についての評価及びその理由)

- ・ いじめ防止に関するプログラムを実施した現２・３学年については、その成果か、今年度、いじめとみなされる行為等は確認されていない。
- ・ スマホの使用ルールについての取組に関しては、それがきっかけで家庭内でのルール作りが進んだ家庭も多数見受けられるものの、その後一年が経過する中で、校内では禁止されている、保護者への連絡以外の使用も時折散見される。ただしＳＮＳ上での人権侵害とみなされるような行為については、現２・３年生については今年度確認されていない。
- ・ アンケート結果の中で、「自分自身や生活について反省したりすることがある」の項目の改善が一番大きかったが、このことはＯＰＰシートの活用による効果もあると考えることができる。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

山梨県立白根高等学校

いじめ防止に関する道徳教育プログラムを作成し、ホームルーム等で活用した事例が報告されている。いじめ問題に対して生徒が持つ認識や考え方を明らかにするため、ロングホームルームで討論させるなどの手法が用いられている。また、自ら考え、設定し、反省するサイクルの習慣化を目的としたＯＰＰシート（「自分振り返りシート」）を活用し、主体的な学びの促進を図るとともに、規範意識の向上を目指した取組が展開されている。

スマホ等のＩＴ機器が急速に普及している現状を踏まえ、ネット環境下でのルールやマナーについて学ぶ「情報モラル教育」に関しても、保護者を巻き込み、生徒・保護者の双方が学べる工夫がなされている。今日的な課題に迫る意味でも、取組の推進が期待される。